



# とっとりまいぶん調査研究ニュース 第2号

国宝高松塚古墳に次ぐ飛鳥時代の「女子群像」  
(青谷横木遺跡)

## 鳥取いにしえの木の王国へようこそ

### 救え！木製品六万点の命

当センターでは、鳥取西道路関連の調査で出土した木製品を管理していますが、その数は何と六万点に及びます。そのほとんどは保存処理が行われておらず、コンテナや水槽に水漬けされた状態であり、このまま放置しては、劣化してしまいます(写真1)。

**トリアージ作業** 現在、木製品一点ずつの状態を観察し、簡易な写真撮影や計測を行って、保存処理や調査研究の優先順序を決める作業を進めています(写真2)。この作業は、災害などで、救命救急隊が治療の優先順序を決めるトリアージと言われるのと同様のものであり、できる限り多くの木製品を効率的に救うために必要な作業です。



写真1 木製品を入れた水槽群



写真2 トリアージ作業



写真3 接合した人形  
(上段の「アガ」の木片を接合)

**新たな発見の期待** 鳥取西道路の調査は、タイトなスケジュールのため整理が追いつかず、貴重な情報を見逃してしまった木製品もあります(写真3)。また木製品そのものの研究も十分ではありません。現在のトリアージ作業や研究を通して発見した新たな情報を、いち早く皆様にお知らせしていきます。

### 国内最長級の地中梁の発見！

ちちゆつぱり

トリアージ作業や研究を通じて新たに分かった例として、松原田中遺跡から出土した古墳時代前期(三世紀後半頃)の地中梁が国内最長級であったことが挙げられます。

**地中梁とは** 砂地などの軟弱地盤上に建物を建てる際、不等沈下を防ぐため、地中の柱の下に据え付ける棒状の木材です。松原田中遺跡の地中梁は平成二十五年度の調査で発見されました(写真4)が、今回の整理作業の中で、2本揃った状態では、弥生・古墳時代において国内最長例となることがわかりました。長さは長いもので七・三メートル、幅厚さは十センチ前後の巨大なスギ材です(写真5)。また、柱が据えられてい

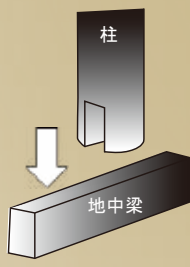


写真4 地中梁出土状況(H25年度松原田中遺跡)  
柱の跡の位置に人が立っています。



写真5 地中梁

た跡も残っており、その跡の大きさから、柱の直径が約三十センチあったことも分かり、当時の建築技術を考える上で重要な発見と言えます。



地中梁と柱の関係

**鳥取いにしえの木の王国** 鳥取県は、青谷上寺地遺跡から弥生時代の精巧な木製品が数多く出土していることで有名ですが、それに加えて今回の縄文時代から中世までの大量の木製品の出土は、まさしく木の王国と呼ぶにふさわしいものです。地中梁からもわかるように、鳥取県は大いなる森林の恵みと、卓越した匠の技で、木の文化を太古の昔より育んできたのです。



# 木の王国の住人たち



ここでは、鳥取いにしえの木の王国の住人とも言うべき、木製品の紹介をします。古くは縄文時代から、新しいところでは中世まで。もちろん青谷上寺地遺跡と同じく弥生時代のものもあり、幅広い時代の多種多様な木製品を是非ご覧あれ。



木製かご  
(縄文時代 高住井出添遺跡)



弓(縄文時代 青谷横木遺跡)  
(左:全景 右:拡大)



鎌先  
(弥生時代 本高弓ノ木遺跡)  
※山陰最古級



木製高杯  
(弥生時代 乙亥正屋敷廻遺跡)



腰掛  
(古墳時代 乙亥正屋敷廻遺跡)



木製ハソウ  
(古代 青谷横木遺跡)  
※国内初出土



人形  
(古代 青谷横木遺跡)  
※仏の絵?



人形  
(古代 大柁遺跡)  
※人の顔が描かれています



漆器類  
(中世 下坂本清合遺跡)

この他にもまだまだ沢山の木製品が見つかっています。直接ご覧になりたい方は、下記の企画展へ是非お越しください。王国の住人一同お待ちしております。

## 企画展：発掘！因幡の遺跡展

期間：2019年2月23日(土)～3月17日(日)

会場：鳥取県立博物館 第3特別展示室

入館料：一般180円

近年、鳥取県東部の発掘調査(鳥取西道路等)で出土した膨大な出土品の中から、選りすぐりの逸品を一挙大公開します。

